

泌尿紀要
Acta Urol. Jpn.

Vol. 31, No.2 ACTA UROLOGICA JAPONICA February 1985

泌尿器科紀要

第31巻 第2号 1985年2月

男子生殖腺にかんする用語の歴史の変遷 — 睪丸から睪丸, そして精巣へ—	友吉 唯夫	199
尿路性器癌に対する Cis-Diamminedichloroplatinum (II) (CDDP) 多剤化学療法時にみられる腎機能障害の検討	川村 寿一・ほか	207
腎外傷 103 例の臨床的観察	鈴木 孝憲・ほか	223
腎盂尿管腫瘍の臨床的検討	由井 康雄・ほか	231
尿管 S 状結腸吻合術患者の術後生活状態 — アンケート調査を中心にして—	矢崎 恒忠・ほか	239
経尿道的超音波断層法による膀胱腫瘍の浸潤度判定	片岡喜代徳・ほか	243
膀胱上皮内癌とその周辺疾患の臨床統計的研究	松田 稔・ほか	249
小児神経因性膀胱にともなう VUR の治療—逆流防止術の検討—	桜井 勲・ほか	257
Low grade の表在性膀胱癌の治療成績	三浦 猛・ほか	265
Cefmenoxime (CMX) の前立腺組織内移行に関する検討	片岡喜代徳・ほか	273
前立腺癌の再燃と再燃癌に対する化学療法	布施 秀樹・ほか	281
気腫性腎盂腎炎の 1 例	滝川 浩・ほか	289
非融合性交叉性腎変位の 2 例	宮北 英司・ほか	295
反復性女子膀胱炎患者に認められた 膀胱三角部の扁平上皮化生について (英文)	村上 信乃・ほか	301
膀胱癌化学療法を契機として発症した Pneumocystis carinii 肺炎の 1 例	池内 博和・ほか	309
遊離回腸を利用した膀胱拡張術後に発生した膀胱腺癌の 1 例 (英文)	守殿 貞夫・ほか	315
小児前立腺横紋筋肉腫の 1 例	長田 恵弘・ほか	319
包皮結石の 1 例	堀 夏樹・ほか	327
右交叉性睪丸転位に左睪丸腫瘍および子宮・卵管をともなった 1 例	瀬口 利信・ほか	331
1970年代の日本人睪丸(精巣)腫瘍の臨床統計	吉田 修・ほか	337
泌尿器科手術における新フィブリン接着剤 Tisseel の使用経験	三宅 弘治・ほか	357
複雑性尿路感染症に対する Cefmenoxime (CMX) の臨床的検討	土田 正義・ほか	365

Editor: Prof. Osamu YOSHIDA, M. D.

Department of Urology, Faculty of Medicine,
Kyoto University, Kyoto Japan 606
京都大学医学部泌尿器科学教室

購読要項 (1983年1月改訂)

1. 発行は毎月、年12回とし、年間購読者を会員とする。
2. 会員は年間予約購読料6,000円(送料とも)を前納する。払込みは振替に限る。口座番号 京都5-4772番 泌尿器科紀要編集部宛。
3. 入会は氏名、住所を記入のうえ編集部あて、はがきにて申し込めば所定の用紙を送付します。

投稿規定 (1983年8月改訂)

1. 投稿：連名者を含めて会員に限る。
2. 原稿：泌尿器科学領域の全般にわたり、総説、原著、症例報告、そのほかで和文または英文とする。
 - (1) 普通論文の長さは、原則として、刷上り本文7頁(400字×28枚程度)図(Fig)10枚、表(Table)5枚までとする。
 - (2) 和文原稿はB5版400字詰原稿用紙横書き、楷書、当用漢字、現代かなづかい、平がなとし、清書する。文中欧語の固有名詞は大文字で、普通名詞は小文字で始め、タイプし、年号は西暦とする。
 - (3) 原稿の表紙に標題、所属機関名、著者名の順に和文で併記する。下段に筆頭著者名(山田：または山田・ほか：)と、2語(例：前立腺がん・PSA)からなる running title および5語(英文)以内の key words を付す。
 - (4) 英文抄録：本文とは別に標題、著者名、所属機関名、抄録本文の順にダブルスペースでタイプし、その和訳をつける。
 - (5) 英文原稿はダブルスペースでタイプし、原稿の表紙に標題、著者名、所属機関名、key words(和文に準ず)、running title(和文に準ず)の順にタイプし、別に標題、所属機関名、著者名、抄録の順に記した和文抄録を付す
 - (6) 数字はすべて算用数字を使用し、単位 m, cm, mm, l, ml, kg, g, mg, μ g, %, °C, pH などとする。
 - (7) 図、表、写真などはすべて別紙とし、写真はトリミングする。説明文は一括して記載し和文、英文を問わず Table 1., Fig. 2. などとする。英文が望ましい。原稿右欄外に挿入さるべき位置を明示する。とくに図・表は必ずタイプまたは楷書で清書し、誤りのないことを確認する。とくに、著者校正時、表中の数字の訂正をされないように願います。様式については本誌の図・表を参照する。
- (6) 引用文献は必要最小限にとどめ、引用箇所を本文中に入れる。その数は30までが望ましい。和文は楷書で、欧文はタイプする。
(例：山田^{1,3,7)}, 田中^{1,3-10)}によると)
雑誌の場合—著者名(全員)：題名。雑誌名
巻：最初頁～最終頁、発行年
単行本の場合—著者名(全員)：題名、書名、編集者名、版数、巻数、引用頁、発行所、出版地、発行年
- (7) 原稿を返却しないのでコピーを手元に残しオリジナルを書留で〒606 京都市左京区聖護院川原町54 京大病院泌尿器科紀要編集部宛送付する。
- (8) 投稿原稿は編集委員会においてその採否を決定し、それに従って編集部は原稿の訂正、書き直しまたは返却を指定する権限を保持する。
- (9) 校正は初校を著者による責任校正とし、再校以降は編集部がおこなう。著者複数の場合校正責任者を投稿時指定する。
3. 掲載
 - (1) 論文の掲載は採用順とする。迅速掲載には迅速掲載料を要する。
 - (2) 紙代、印刷費および最初1頁の組版費は編集部で負担する。残額を実費負担とし、請求は論文掲載誌発行後におこなう。論文の長さが超過した場合、超過料を別途に申し受ける。
 - (3) 薬剤の効果、測定試薬の成績、治療器具の使用などにかんする研究論文については、掲載料を別途に申し受ける。
4. 別刷
実費負担とし、著者校正時に部数を指定する。
宮崎 重 新谷 浩
吉田 修(主幹)

編集委員：石神 襄次 前川 正信 宮崎 重 新谷 浩
園田 孝夫 友吉 唯夫 吉田 修(主幹)

泌尿器科紀要 第31巻 第2号 1985年2月25日 印刷 1985年2月28日 発行
発行 吉田 修 顧問 加藤 篤二 発行所 泌尿器科紀要刊行会
〒606 京都市左京区聖護院川原町54 京都大学医学部泌尿器科学教室内 電話(075)751-3327(直通)
印刷所 山代印刷株式会社 京都市上京区寺之内通小川西入
